

ソフト分野開発への展開

PLM/SCM 分野において PDM アプリケーションを中核としたソフト開発をスタート

当社は今年度の事業計画において、第3のビジネスの柱として PLM ソリューションビジネスを掲げています。その中心は3次元データ活用ソリューションビジネスと PLM/SCM 分野のソフト開発ビジネスであります。

PLM/SCM 分野のソフト開発では、対象領域を PDM を中核とするアプリケーション領域に設定しています。

PDM は設計データ管理や部品表管理などに用いられ、組立企業における「もの作り」の最上流のシステムとして位置づけられています。その設計情報・製品情報は設計に留まらず、ERP、SCP など生産・物流管理に連携していきます。近年、その重要性はさらに増大しています。

当社は、企画構想および具体的な実行計画へブレークダウンするコンサルティング体制と、プロジェクトマネジメント体制の強化を進めています。今後1年以内に10名程度に増強を行う計画です。

また、開発コストダウン要請への対応のために、日本企業の開発経験の深い中国ソフトハウスとブリッジSEの派遣・オフショア開発に関する業務提携で合意しており、近々に発表できる運びです。

この度、以上のようなビジョン・実体が評価

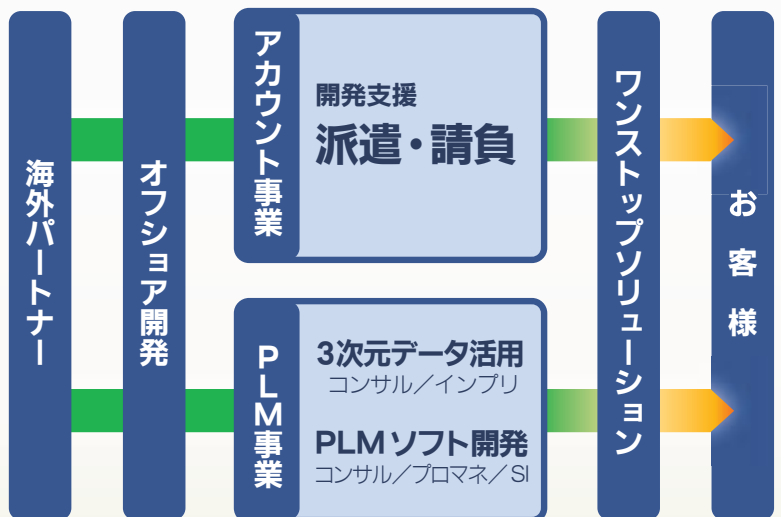
され、具体的な開発案件を受注しスタートしました。当社にとっては記念すべきプロジェクトです。始まったばかりですが、2・3年のうちに年5億円規模の開発体制にもっていければと考えています。

皆様におかれまして、何か開発案件があれば是非、一言お声を掛けていただければと願っております。

よろしくお願いいたします。

営業本部長 猪俣博康

PLM事業の位置づけ



新技術拠点 大阪ソリューションセンター 設立

大阪市中央区 / 住友生命本町第二ビル

今年11月、東京・名古屋に続き当社として3番目にあたるソリューションセンターを大阪に開設いたしました。当センターでは社会貢献はさることながら、技術者の人材育成を主目的にさまざまな情報発信や問題解決の基地として、教育・請負・技術者派遣・サポート体制の充実を図り、顧客満足度の向上と、新しいリソース型センターを目指します。

今回の出展では、受託請負・コンサルティングサービスによる3Dデータを生かすものづくりを中心とした、お客様が設計・製造上で直面するさまざまな問題を解決するトータルソリューションのPRをメインに行いました。各種CADシステムなどの導入相談や設計請負、技術者派遣に関する引合いやご相談を多数のお客様よりいただき、製造業において外部へ技術支援を求めておられる状況を実感致しました。

お忙しい中、展示コーナーにお立ち寄りいただき、ありがとうございました。



2006年10月 / インテックス大阪

DMS 第9回 関西設計・製造ソリューション展 出展
9th DESIGN ENGINEERING & MANUFACTURING SOLUTIONS EXPO/CONFERENCE KANSAI (OSAKA) 2006



当社の事業の中でも、異種独特であるブロードキャスト事業をご紹介します。

『全国 127 局に拡がった『地デジ』』

皆さんは、もうこの言葉をご存知でしょうか？

以前に比べるとあちこちで耳にします「地デジ」。そう、SMAPの草彅剛さんがTV CMもしている「地上デジタル放送」です。まだ予定ではありますが、2011年7月24日をもって今のアナログ放送が終了（停波）され、デジタル放送に対応していない従来型テレビ受像機では、その後のテレビ放送を見ることができなくなります。

デジタル放送は2003年末より東京・名古屋・大阪の3大都市を皮切りに開始されており、その後も段階的にエリア拡張が進んでおりました。そして2006年12月から新たに岡山、香川、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島県の8県で放送開始され、すべての都道府県で視聴できるようになりました。これによりデジタル放送は、全国127局の民放全局での本格的な展開が始まります。

『デジタル放送時代の放送システム』

アナログ放送からデジタル放送へ、その移行期放送システムを支えるのがプロフェッショナル業務用VTRであるHDW-M2000（ソニー株式会社様製）です。

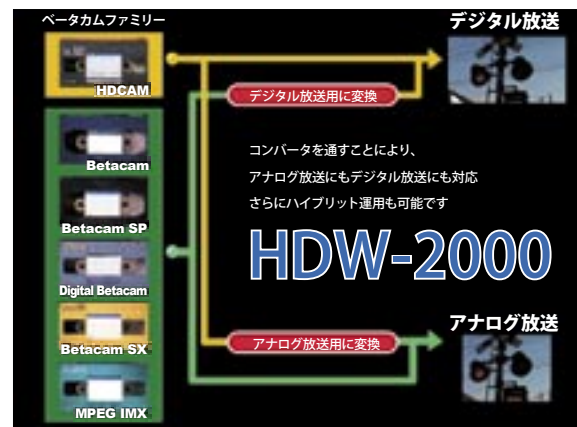
HDW-M2000はベータカム素材や従来のベータカム・ファミリーの放送機材で収録した1/2インチテープなどの再生時にもアナログ信号とデジタル信号の両方を出力することで、デジタル制作を可能にしたVTRです。現用のアナログシステムに組み込んで即時に稼働させることも可能です。HDCAMは全世界で27,000台以上採用されており、国内でも圧倒的シェアを誇っています。

＜送出システム＞はHDW-M2000とUB-5000を組み合わせで構築されています。当社ではソニー株式会社様の下で、このUB-5000のソフト設計業務を一手に担当させていただいております。運用に合わせたシステムカスタマイズを始め、市場クレームの技術的窓口業務支援のほか、システム運用上の問題解決や要求実現を行うために、全国各地のテレビ局へ足を運ぶこともあります。

UB-5000はテレビ局の自動送出システムやサブ調整卓などからのパラレル制御信号を処理し、放送局用VTR（主にソニー株式会社様製VTR）を制御するユニットです。フロントパネルにはカスタマイズ対応のための16個のユーザースボタンが用意されており、各テレビ局の用途や運用に合わせて、ソフト設計により機能を割り付けることができるユーザースインターフェースボックスです。

私たちはソニー株式会社様の協力会社として、ソリューションの構築を請け負う「送出のシステムインテグレータ」集団です。私たちが携わった物／システムは、全国のテレビ局で使われ、送出（ON AIR）されています。

私たちはソニー株式会社様の協力会社として、ソリューションの構築を請け負う「送出のシステムインテグレータ」集団です。私たちが携わった物／システムは、全国のテレビ局で使われ、送出（ON AIR）されています。



業務用VTR SONY HDW-M2000



SONY UB-5000

未来

のエンジニアのため、各大学と連携

- 特色ある大学での取り組み内容を紹介 -

明星大学 デザイン領域の情報エンジニアの教育・育成

情報学部情報学科
講師 川原 万人

東京都日野市 <http://www.meisei-u.ac.jp/>

明星大学情報学部情報学科デジタルクリエイティブコースは大学の改組改変に伴って2005年4月に開講しました。その中で私共のコンピュータグラフィックス分野は、デザイン領域で必要とされる情報エンジニアを育成することを第一の目標としています。具体的な人材像としては、デザインの基礎を身につけたうえで、自由曲面を理論的にモデリングできるデジタルモデラ、製品の商品性評価のための写実的なレンダリングを制作できるCGクリエイター、デザイン用のモデリングやレンダリングのソフトを開発したり既存のソフトのプラグインをプログラミングできるプログラマー、デザイン領域のデータマネジメントシステムの構築に携われるシステムエンジニア、などです。また、このような職種では、欧米はもちろんのこと、今後はアジアの多くの地域との協業が不可欠なため、英語でのコミュニケーション能力の強化を第二の目標としています。

ところで、このような人材育成を目標とした理由ですが、それは、デザイン領域に携われる情報エンジニアの国内における絶対数が少なく、デザイナーやモデラの持つさまざまなノウハウをシステム化するには全くの人手不足である点にあります。とくに、デザイン教育を受けてデザインの現場を体験した情報エンジニアは、デザイナーのうちコンピュータに強い者が自らの経験を基にしたノウハウを知見として独学した者で、人材的には質、量とも危機的な状況にあります。

一方で、デザインは今後も日本が世界に貢献できる競争力のある知的財産のひとつと考えられ、その競争力を保つにはコンピュータの活用が不可欠です。そのため、デザイン領域の情報エンジニアを一人でも多く育てることが急務であるといえ、それこそが私どもの分野の存在価値であると自負しています。

最後に、デザインは実学ですので、産業界の“今”の情報が欠かせません。したがって、私共も積極的に学外の企業との関わりを持っていこうと考えています。そして、より現場に強い情報エンジニアの輩出を目指す所存です。



富士テクノがお手伝いしています

明星大学では、来期授業よりPDMを用いた教育資産管理のシステムが稼働されます。think3社の「thinkteam」(PDM)「thinkdesign」(CAD)を導入。富士テクノは共同で、授業での臨時講師、カリキュラム作成などに取り組み、エンジニアの育成を行っていきます。

玉川大学 代替エネルギーを活用したハイブリッド・ソーラーカーの開発

ソーラーチャレンジプロジェクト
工学部教授 小原 宏之

東京都町田市 <http://www.tamagawa.jp/>



次期開発車両
CFRPを用いた
4輪ハイブリッド・ソーラーカー

シャーシの強度解析

化石エネルギー依存から、地球環境に優しく、クリーンで再生可能なエネルギーシステムの開発、水素による二次エネルギーシステムの構築、を指して燃料電池とソーラーカーを組み合わせたハイブリッド・ソーラーカーを開発しました。これは既存のソーラーカーの欠点を克服したもので、曇天時や夜間でも燃料電池により走行が可能です。2003年12月にはこの世界初の車両でオーストラリア大陸4000kmの横断走行試験に臨み、成功しました。また、国内で開催されるJISFC/WSRレースでは、燃料電池部門で3連覇しています。

さらにハイブリッド・ソーラーカーの基本をキット化することを狙い、次期車両の開発を進めています。これまで3輪であった車体を4輪化するため、シャーシの強度解析が重要であり、富士テクノソリューションズ様よりこれに関しての技術協力をいただいております。

また、カーボンニュートラルなバイオマスの変換によりエネルギー源を供給し、CO₂を増やさない持続可能な技術開発も要求されています。現在本学では、微生物を用いたバイオマスからの水素生産、エタノールからの水素改質の研究開発を進めています。

これらの工学的・学術的研究は、単にレースに参加し、競技に勝つためばかりでなく、ソーラーエネルギー利用にかかわる問題点の抽出、有効利用技術の向上、さらには環境問題への啓蒙が重要であると考えています。これらを発表する場として、2006年10月28日には富士テクノソリューションズ様にご協賛いただき第4回目となる「ソーラーヴィークルとソーラーバイクに関するワークショップ2006」を開催致しました。ここに改めて深く御礼申し上げます。

富士テクノがお手伝いしています

富士テクノは、ソーラーカーの設計段階での解析などを学生とともに取り組み、今後、燃料電池車など環境に配慮した自動車等の開発をとともにご支援していきます。

各大学とも魅力のある取り組みを行うなかで、富士テクノは今後も大学をご支援するとともに、ものづくりを通じて未来のエンジニアのため、さらなるソリューションを提供していきます。

早期、商品開発実現に向けて！ 開発期間短縮を促進

株式会社アマダ **ペンディング開発部**
開発マネージャー 柳川耕一様



Q 現在、御社ではどのような業務内容でアウトソーシングサービスを利用されていますか？

A 現在、富士テクノソリューションズの派遣者が6名、商品開発P/Jメンバーとして3次元CAD設計及び評価テストの業務に携わっております。また、請負としては構想設計・ユニット設計・構造解析など多岐にわたって協力していただいております。

Q アウトソーシングサービスを利用するにあたって、社内体制や開発サイクルなどはどのように変化して行くとお考えですか？

A 開発設計段階からフロントローディングを行うことにより、試作機にてQCDを見極め、出戻りのない短期間で商品開発に移行して行きます。構想・試作設計段階で3Dモデルによるシミュレーション（組立の最適化・治工具・メンテナンス・コストモジュール化・CAM）が完了できるのです。これを実現していく

ためには設計をする技術者は単なるオペレータではなく、スキルを持った人が要求されていくと考えています。

Q 富士テクノソリューションズをご利用いただく決め手はなんですか？

A 弊社における商品群ごとの開発ニーズに対応できるスキルを持った技術者を確保されているため、リードタイムの短縮を図れます。特に構造解析においては最新の解析ソフトを使い、ノウハウと実績から信頼を持って活用しております。応力とたわみは実測値との誤差がないため、テスト期間が短縮できています。

Q 富士テクノソリューションズとはどのような企業だと思われますか？率直なご意見をお聞かせください。

A 富士テクノソリューションズは「デジタルエンジニアリング」「技術者派遣」「PLMソリューション」の3本柱を軸にサービス展開をされており、我々

商号	株式会社アマダ http://www.amada.co.jp/
本社所在地	神奈川県伊勢原市石田200番地
設立	1948年(昭和23年)5月
資本金	547億68百万円 (2005年3月末現在)
従業員数	1,571名(単独) 5,041名(連結) (2005年9月末現在)

メーカーの商品開発をバックアップしていただいていると共に、良きパートナーとしてお付き合いしております。今後とも先端技術の追求と提供を期待しています。

Q 富士テクノソリューションズに対して要望はありますか？

A 今後、派遣や請負においても技術者はより高度なスキルを求められていきます。お客様とのコミュニケーションを図ると共に、人材育成に努めていただきたいと考えております。

柳川様には、忙しい中ご協力いただきありがとうございました

トピックス

● SWWJ2006ハンズオン ●

SolidWorks World Japan 2006にて、セミナーを開催いたしました。今回はSolidworks導入を検討または導入直後のユーザー様向けに、新たな3次元CADでの設計開発に取り組むにあたっての設計意図に沿った具体的な設計アプローチ法を解説。実際にSolidworksを使用して受託設計を行っている講師がユーザー様と同じ立場に立って解説いたしました。

目黒雅叙園にて



● ISO27001認定を取得いたしました 2006年12月 ●

当社は、お客様からお預かりした機密情報に対して、盗難、破壊、情報漏洩、不正使用を防止するため、情報セキュリティに対して万全な体制を構築します。よって、社内の体制整備とコーポレートガバナンスの維持向上に努め、情報資産の適切な運用を行い、お客様の信頼を確保し、より良いサービスの提供をいたします。

これからもお客様のご要望にお応えし、品質の優れた信頼と満足の得られるサービスを提供してまいります。



登録証番号	JQA-IM0413
取得日	2006年12月15日
適合規格	ISO/IEC27001:2005
審査機関	財団法人日本品質保証機構(JQA)